

北海道標茶高等学校の行動計画(グローバル・アグリハイスクール宣言)

全国の農業高校の行動計画		学校において平成29年度に重点化した取組の実現状況・課題			
「5つの基本方針」	「10の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
I グローバル教育 で人材を育てる 学校	①「生徒一人一人を一層成長させる」教育を行います。	農業クラブ事業の工夫改善を行い校内事業を充実させ、クラブ員満足度80%以上を達成する。	・校内行事の内容改善を図った。収穫感謝祭や実績発表大会で新たな取組を実施することができた。	・クラブ員による計画的な取組につながるよう三大事業での充実度や達成感を高める。	4
	②「世界と日本をつなぐグローバル」教育を行います。	国際交流、交換留学活動の推進と共に国際意識を育み視野を広くした教育を展開する。	・海外研修活動を積極的に実施することができた。また、釧路港にて、外国人観光客へ地域の説明をするなど交流活動を展開することができた。	・国際交流をはじめ国際意識を全校生徒へ浸透させ、醸成する工夫が必要である。一方では足もとの地域文化をしっかりと見据えることも重要である。	4
II 地域社会・産業 に寄与する学校	③「地域農業の生産を支える」教育を行います。	食の6次産業化プロデューサー認証を推進し、農業理解者を育てる。	・現在5名の生徒がレベル2認定に向けて申請中である。	・関連科目の中で横断的な取組を進め6次産業化を推進させる。	5
		品質管理の徹底、施設や設備の定期点検を行い食品加工品の維持管理に努める。	・重要管理点の見直しと記録管理を実施している。	・AFSに基づき更に安全安心な衛生環境を整えること、HACCPの取得に向けて取り組む。	4
	④「地域の農業関連産業に寄与する」教育を行います。	地域の環境に配慮した農業教育の推進を図り、地域が取り組む環境文化財産の継承に努める。 就業体験の取組を推進し、地域貢献できる人材を育てる。	・校地を有効活用した教育活動に取り組むことができた。 ・地元商工会など関係機関との連携を図ることができた。	・地域産業人との交流活動や外部講師の導入を効果的に計画する。 ・地域との協同研究等を実施し、地元根付く産業人育成につながるよう取り組む。	5 4
III 地球環境を守り 創造する学校	⑤「地球環境を守り創造する」教育を行います。	地域産業と自然環境の調和を追求し、循環型農業の推進を図る。	・ほ場へ家畜糞尿を有効活用した農場運営を行うことができた。	・土壌の状態を科学的に知った上で、牧草地や野菜畑の還元に関しても取り組む。	5
	⑥「食農」教育を推進します。	地域の異校種交流実施を行う。また、ボランティア活動などへの意識高揚を図る。	・地元小学校との食育活動をはじめ意欲的に活動することができている。	・異校種交流が小学生の成長にどの様に関わっているのかなど、不透明な部分であり、また活動範囲を広げる教務的な配慮が必要である。	4
IV 地域交流の拠点 となる学校	⑦「地域資源を活用する」教育を行います。	地域と連携して地域資源を活用した商品開発に取り組む。	・ミニ湿原やエゾシカ肉加工品づくりなどの研究活動に取り組むことができた。	・更なる教育効果と見える成果を目指し、組織体系を確立する。	4

V 地域防災を推進する学校	⑧「地域交流の拠点となる」教育を行います。	生徒が主体的に活動できる環境を整え、地域交流の取組を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域環境系列事業をはじめ、系列の取組として様々な体験を実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年次により参加率に差があったことが課題である。指導する側の共通認識を高めなければならない。 	4
	⑨「機関・団体と連携した」教育を行います。	地域連携事業の展開を行い農場を活用した連携教育を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校開放農場には38名の参加があり交流学习を実践した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的で活発な交流活動に至らなかった。 ・生徒が前面に立ち交流する意欲を高める。 	3
	⑩「地域防災を推進する」教育を行います	食に関する安全・安心に係わる技能と意識向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・食品科目で実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安心安全の見える化によって、消費危害を実感させ、外部講師を招くなど更なる充実を図る必要がある。 	4